

東京文化会館舞台芸術創造事業

# 日本舞踊×オーケストラ

— 伝統の競演 —

レ・シルフィード

ロミオとジュリエット

ペトルーシュカ

牧神の午後

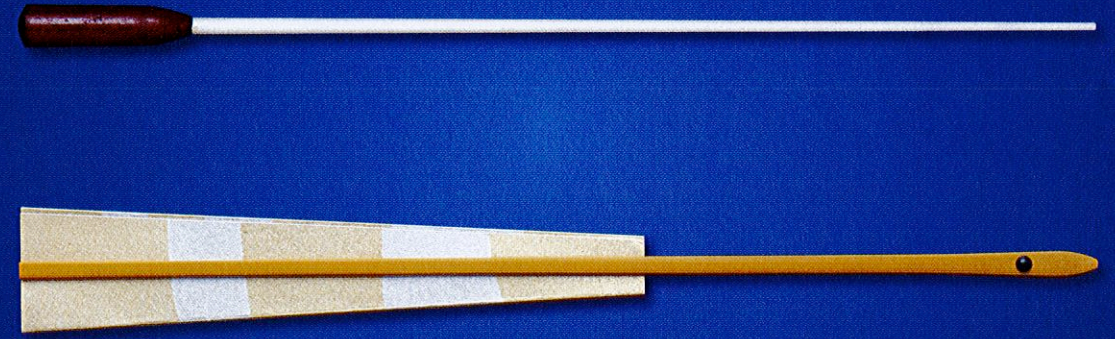
花柳壽輔 井上八千代

ボレロ

野村萬斎 男性群舞

指揮：大井剛史

管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団



平成24年12月7日(金)

19:00開演(18:15開場)

会場：東京文化会館大ホール

主催：東京文化会館(公益財団法人東京都歴史文化財団)

企画協力：公益社団法人日本芸能実演家団体協議会、公益社団法人日本舞踊協会

東京文化会館 ザ・イヤーパートナー：上野精養軒

企画・制作：東京文化会館 事業企画課

平成24年度芸術文化振興基金助成事業

歌舞伎俳優 坂東玉三郎



このたびの舞踊会「日本舞踊×オーケストラ」公演は、ヨーロッパと日本の舞踊芸術が融合する楽しい演目が並びます。考えてみますと、私たちの時代は、知らず知らずにヨーロッパの印象派の影響を受けています。逆にヨーロッパでも、モネ、マネ、ゴッホはもちろんのこと、音楽家ではラヴェル、ドビュッシーなどの数かぎりない芸術家が東洋の影響を受けているのです。そういう意味で、私たちが純古典と思っているものの中にヨーロッパの雰囲気や漂うものがあります。これからの次代の舞踊家の方々が、国境を超え、流儀を超えて古典はもちろんのこと、新作においてもどのような日本舞踊を創っていつてくれるのか、大きな期待を寄せながら、当日の舞台を想像し、夢をみさせていただきたいと思ひます。

映画監督 篠田正浩



古典芸能が伝統として苛酷な現代を生き残るのに、保護は必要ではない。彼らがこの世に登場したときから、その創造性の衝撃が世間を席卷し、その刺激によって民衆に受容されてきたはずである。古典が伝統として存在してきたのは、絶え間なく生まれ変わる時代の混沌の渦から生まれた必然を背負っていたからで、保護されたからではない。ドビュッシーもラヴェルもストラヴィンスキーも「これが舞踊音楽か」「一流オーケストラは演奏を拒否するだろう」と非難されたものだ。今度の東京文化会館で上演される日本舞踊が彼らのバレエ音楽と出会う異種交配は、決して冒険でもなければ異端でもない。花柳壽輔・野村萬斎らの手によって、この国の文化伝統がどれほど豊かな表現力や創造力に富んでいるかを、私たちに再認識させてくれるはずである。

バレリーナ・松山バレエ団 理事長・団長 森下洋子



このたび、昭和36年の創立以来、日本の文化芸術を牽引して下さった東京文化会館という素晴らしい劇場で、日本舞踊とオーケストラという日本と西欧の伝統が出会い、融合し、新しい響きを生み出す場が開かれますこと、心よりお祝い申し上げます。御関係者の皆様の創造への強い情熱に、勇気を頂く思ひしております。先生方の磨かれ、極められたきめ細やかな日本の感受性がバレエの名作に注ぎ込む新たな命は、多くの方の心に芸術の新たな可能性を示し、希望をお届けすることと思ひます。こうした試みが、文化芸術をより豊かに導き、育むきっかけとなりますことを、心より願ってやみません。

## チケット発売情報

7月28日(土)発売【東京文化会館友の会会員7月14日(土)先行発売】

一般	S席 12,000円	A席 10,000円	B席 8,000円	C席 5,000円	D席 3,000円
東京文化会館友の会会員	S席 11,000円	A席 9,000円	B席 7,200円	C席 4,500円	—
ハンディキャップ	S席 9,600円	A席 8,000円	B席 6,400円	C席 4,000円	—
学生(25歳以下)	S席 8,400円	A席 7,000円	B席 5,600円	C席 3,500円	—

## チケット取り扱いプレイガイド一覧

東京文化会館チケットサービス <b>03-5685-0650</b> (10:00~19:00 休館日を除く)	チケットぴあ <b>0570-02-9999</b> [Pコード:421-810]	ローソン <b>0570-000-407</b> [Lコード:L35107] オペレーター対応 10:00~20:00 *電話申込のほか、全国ローソン店頭 ロビーで直接購入ができます。	イープラス <a href="http://eplus.jp/t-bunka/">http://eplus.jp/t-bunka/</a>
---	---	---	--

※各種割引チケットは、東京文化会館チケットサービスのみ取扱い。

※都合により演目・出演者等、変更の可能性がございますのでご了承ください。

※未就学児の入場はご遠慮いただいております。 託児サービス(要予約・有料・11/30(金)締切)があります。 イベント託児・マザーズ0120-788-222

主催・お問合せ先

東京文化会館 事業企画課 03-3828-2111(代表) <http://www.t-bunka.jp/>

〒110-8716 東京都台東区上野公園 5-45

東京文化会館モバイルサイトはこちら▶



衝撃の出逢い！オーケストラで舞う日本舞踊。



芸術文化振興基金



東京文化会館舞台芸術創造事業

# 日本舞踊×オーケストラ

## —伝統の競演—

ひとつの時間のながれのなか、  
からだの動きと楽音が、ストーリーを織りなしてゆく。

「日本舞踊×オーケストラ」とのタイトルを傍らに置いて、演目だけ、まずみてみたら、どうでしょう。オーケストラが奏でるこの音楽によるストーリーに、日本舞踊が交差する。何か、異なったものどうしが「たまたま」出会ってしまったよう、でしょうか。でも、もしあなたが和装で、街にでてきたら、それはもう、この舞台から遠くありません。日々の動作を模倣し、型とし洗練し、ひとつのながれとしてつくりあげる、うごきそのものを造形することは、ひとが踊ることの本源的なありようです。ひとのからだがつくりだす動き、と、音がつくりだす動きとは別々にみえますし、ダンスと音楽と呼ばれますが、古代世界でそうあったように、もともとはひとつの「調和」「音楽」なのです。他方、ここで響く西洋由来の音楽は、本来はバレエとして踊られるもの、それもこの百年くらいのうちにつくられた、オーケストラの色彩感を存分に楽しめる作品ばかり。もし驚かれるとしたら、日本舞踊とオーケストラという異質の出会いにではなく、むしろごくごくふつうの表現としてご自身が受け入れてしまえるところ、かもしれません。グローバルな私たちのなかで、ローカルなものたちがひとつの空間を、照応を、調和を生みだしてゆく。そのさまを「日本舞踊×オーケストラ」で体験できるにちがいありません。

音楽・文芸評論／早稲田大学教授 小沼純一

はなやぎじゅすけ

### ■ 演出：花柳壽輔

レ・シルフィード (ショパン作曲)

- 振付／藤蔭静枝
- 出演／吾妻徳彌

五條絢巳、五條詠佳、五條珠雀、西川申晶、花柳和あやき、花柳秀衛、花柳ツル、花柳美輝風、坂東里子、坂東はつ花、坂東幸奈、藤蔭静寿、藤蔭美湖、藤蔭里燕、藤間藤椏、藤間蘭翔、水木扇升、若柳薫子、若柳恵華、若柳美香康

ロミオとジュリエット (プロコフィエフ作曲)

- 振付／坂東勝友
- 出演／花柳典幸(ロミオ)、尾上紫(ジュリエット)
- 美術／朝倉摂

ペトルーシュカ (ストラヴィンスキー作曲)

- 振付／五條珠實
- 出演／若柳里次朗(ペトルーシュカ)、花柳寿太郎(ムーア人)、花柳大日翠(バレリーナ)、花柳輔蔵(人形遣い)
- 美術／金子國義

牧神の午後 (ドビュッシー作曲)

- 振付／花柳壽輔、井上八千代
- 出演／花柳壽輔、井上八千代
- 美術／千住博

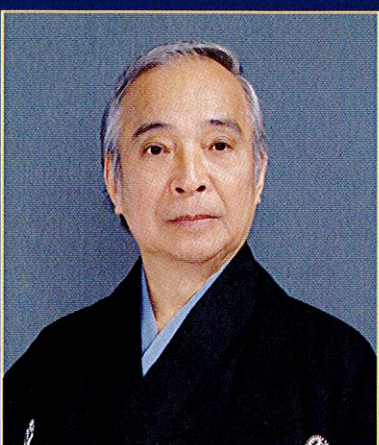
ボレロ (ラヴェル作曲)

- 振付／野村萬斎、花柳輔太郎、花柳壽輔
- 出演／野村萬斎

吾妻豊太郎、市山松扇、五條珠太郎、猿若清三郎、西川一右、西川扇左衛門、西川扇重郎、西川扇衛仁、西川大樹、花ノ本海、花柳克昂、花柳貴柏、花柳九州光、花柳恵右衛門、花柳源九郎、花柳琴臣、花柳寿志利、花柳寿宣典、花柳輔蔵、花柳寿々彦、花柳寿美蔵、花柳静久郎、花柳琢次郎、花柳達真、花柳近彦、花柳登貴太郎、花柳昌克、花柳昌鳳生、花柳楽人、藤間勘護、藤間仁鳳、藤間達也、藤間豊彦、藤間直三、松風光陽、若柳吉央、若柳吉優人、若柳吉優亮、若柳三十郎、若柳美世英

- 照明：沢田祐二
- 舞台監督：菅原多敢弘

※オーケストラはオーケストラピットでの演奏となります。



### 花柳壽輔 演出／牧神の午後

花柳流四世家家家元。平成19年に四世家元壽輔を襲名。二十代で日本舞踊界に登場以降、日本舞踊家としてはもちろん「東宝歌舞伎」などで俳優としても活躍。宝塚歌劇団や商業演劇での振付作品も数え切れない。本公演では演出と構成も担当、傘寿を超えた現在も新しい試みに対する意欲は増すばかりである。流派を超えて後進の指導的立場にあり、名実ともに日本舞踊界を代表する舞踊家である。日本芸術院会員。東京芸術文化評議会評議員。



### 吾妻徳彌 レ・シルフィード

吾妻流六代目家元。幼少より祖母の故吾妻徳徳に師事、昭和53年に20歳で吾妻流六代目家元を襲名。古典舞踊、創作舞踊を問わず実力を発揮する。しなやかでありながら同時にダイナミックな舞台姿で圧倒的な存在感を放つ。日本芸術院賞、文化庁芸術祭大賞受賞。



### 大井剛史 指揮

東京芸術大学指揮科卒業、同大学院指揮専攻修了。2007年～09年3月までチェコ・フィルハーモニー管弦楽団にて研修。09年、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉常任指揮者、山形交響楽団指揮者に就任。国内の主要なオーケストラを指揮し、いずれも高い評価を得ている。現代作品やオペラ、バレエの指揮をするなど幅広い分野で意欲的に活動している。2008年アントニオ・パドロッチー国際指揮者コンクール第2位。  
<http://conductor-ooi.mimoza.jp/>

### ■メッセージ

今回の公演がユニークな点は、新作の為の音楽ではなく、従来バレエ音楽として馴染みの曲ばかりを、オーケストラの生演奏で、日本舞踊家が振付し、又踊ると云う事です。狂言師野村萬斎氏が「ボレロ」に特別出演され40名の男性日本舞踊家と競演するのも初の試みです。また初演からちょうど今年100年を迎える「牧神の午後」が日本舞踊で上演されるということは、時代と洋の東西を超えた芸術の邂逅とも言えましょう。そしてこの度は、舞台美術も多彩な画家の方々の御協力を頂いて、視覚的にも充分にお楽しみ頂けると思います。何卒クラシック、又バレエファンの方々にも日本舞踊の表現の美しさ、面白さ、楽しさを御鑑賞頂きたいと思ひます。

### 花柳壽輔



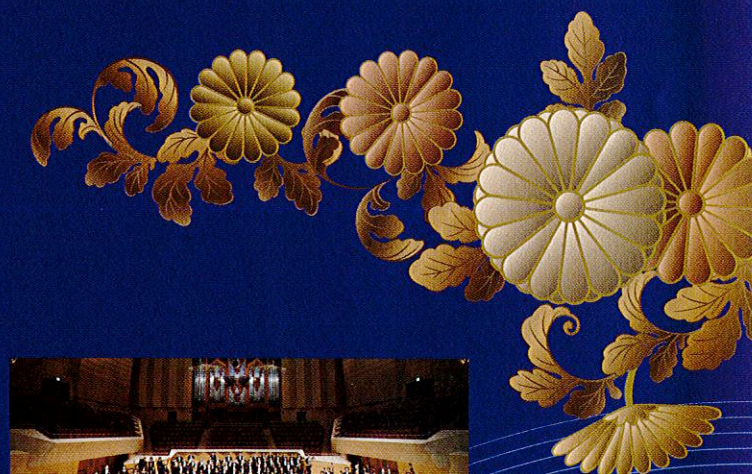
### 井上八千代 牧神の午後

京舞井上流五世家元。祖母である四世家元に師事、平成10年に五世家元として井上八千代を襲名。端正な品格と柔らかな味わいにあふれた舞姿は独自の境地のもので、全国にファンが多い。祇園甲部の「都をどり」の振付指導にもあたる、日本の伝統文化を象徴する一人である。日本芸術院賞受賞。



### 野村萬斎 ボレロ

狂言師。祖父・故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。国内外で狂言・能公演に出演し普及に努める一方、現代演劇、映画、テレビドラマにも主役で多数出演。また世田谷パブリックシアターの芸術監督を務め、演出や企画でも手腕を発揮する、まさに八面六臂の活躍を見せる。芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。



©K.Miura

### 管弦楽 東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。2011年、日本のオーケストラとして最初の100周年を迎える。約150名のメンバーをもち、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつオーケストラ。常任指揮者はダン・エッチェンガー。定期演奏会を中心とする自主公演、新国立劇場などでのオペラ、バレエ演奏、放送演奏、教育プログラムなどの国内活動をはじめ、海外公演でも高い評価を得ている。公式ウェブサイト <http://www.tpo.or.jp>

### 野村萬斎

父・万作がやりたがっていたこともあり、幼い頃から「ボレロ」には大変興味があったのですが、2011年12月、芸術監督を務める世田谷パブリックシアター「狂言劇場」で、独舞の形に振り付け上演しました。「ボレロ」は狂言の「三番叟」という舞踊曲に似て、同じリズムを繰り返しながら螺旋状に盛り上がっていくところに共通性を感じ、また、芸能の原初を喚起させる「古事記」のアメノウズメ伝説に通じるものもあるように思います。創作している時から、群舞をつけるとしたら能楽より日舞の方が迫力があるだろうと思っていましたので、今からとても楽しみにしています。花柳壽輔先生にこのような機会を頂戴しましたことは大変ありがたく、精一杯挑む所存でございます。